

日本鉄鋼協会記事

理事會

第3回 理事会 開催日：9月6日：出席者：荒木会長，ほか42名。

1. 林達夫記念資金新設について

林達夫氏（大同特殊鋼相談役）より私財500万円の寄付申し出があり受領することを決定した。電気炉関係の若い技術者を対象に2年に1回位の表彰を予定している。

2. 第3回湯川コロキーの件

秋季講演大会で新名誉会員に推挙される，Gamboa, Jaramillo 両氏を囲み10月21日箱根プリンスホテルで第3回湯川コロキーを開催することを決定。

3. 訪中学術使節団派遣の件

中国金属学会の招聘により9月22日から10月5日まで田畑専務理事を団長とする使節団を派遣することを決定。尚明年には同規模の代表団を招待する予定。

編集委員会

第8回和文会誌分科会 開催日：10月5日。出席者：佐野幹事，ほか13名。

1. 19件の論文審査報告がなされ，掲載決定16件，照会后掲載可2件，その他1件であった。

2. 「鉄と鋼」第66年第2号（2月号）に論文12件技術資料1件，特別講演1件，寄書1件，随想1件，計16件掲載決定した。

第8回欧文会誌分科会 開催日：10月9日。出席者：橋口主査，ほか8名。

1. 25件の論文につき審査報告がなされ，掲載可10件照会后掲載可7件，修正依頼7件，一旦返却1件であった。

2. 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より，6件の研究論文を勧誘することとなった。

共同研究会 鋼管部会

第25回溶接鋼管分科会 開催日：9月13日，14日。出席者：大日方主査，ほか延べ108名。

9月13日 電弧管関係

次の2件の共通議題についてのまとめ発表および討議が行われた。

(1) 組替について（スパイラル）

(2) 切削技術について（ストレートシーム）

9月14日 電縫・鍛接管関係

次の2件の共通議題についてのまとめ発表および討議が行われた。

(1) 要員について（鍛接管関係）

(2) 品質管理及び技術管理体制について（電縫管関係）

さらに，両日共工場操業状況についての報告ならびに

質疑が行われた。

特定基礎研究会

スラグの有効利用に関する基礎研究部会

第9回部会 開催日：9月11日，12日。出席者：松下部会長，ほか22名。

1. 場所 新日鉄・芙蓉荘

2. 議事概要

(1) 技術資料の進捗状況について

予定通り「鉄と鋼」12号に高炉編，転炉編を同時に掲載されることとなった。

(2) 部会研究報告のまとめについて

表記について討議し，次回部会までに整理することになった。

3. W. G. 会議

各W. G. 幹事の司会により各委員の研究経過，論文の発表，討議が行われた。

(1) 高炉W. G.

6件の研究発表が行われた。

(2) 転炉W. G.

6件の研究発表が行われた。

(3) 有効利用W. G.

3件の研究発表が行われた。

鉄鋼標準試料委員会

第54/III回常任委員会 開催日：9月28日。出席者：池野委員長，ほか12名。

1. 標準値の決定

りん分析専用鋼（JSS 230-4, 231-3, 232-3），硫黄分析専用鋼（JSS 240-8, 241-6, 242-7）の標準値を決定。

2. JSS 試料番号の再整理

3. 炭化物系析出物抽出用標準試料W. G.，高純度鉄W. G.の進捗状況

4. フェロアロイ標準試料の拡充

5. 鉄鉍石銘柄（JSS 800-ロンビン）の代替品の検討

6. 鉄鉍石及びマンガン鉍石標準試料の更新

7. 低合金鋼シリーズ（JSS 150~155）のチェック分析結果

第56回委員会 開催日：9月28日。出席者：池野前委員長，川村新委員長，ほか17名。

1. 常任委員会報告

2. JSS 試料番号の再整理

3. JSS 試料の在庫と今後の製造スケジュールについての報告

4. 委員長交替

池野委員長の播磨耐火煉瓦（株）社長就任に伴う辞任により新委員長に川村和郎氏（新日鉄・生産技研副所長）が推挙され承認された。

鉄鋼基礎共同研究会

鉄鋼材料の摩耗部会

第2回部会 開催日：10月5日。出席者：木村部会長
ほか27名。

前回に引続き、従来の研究についての勉強会を行った。今回はロールメーカーからの以下に記す発表と質疑応答が行われた。

- (1) 転がり試験機によるロール材の焼付けに関する評価
- (2) 冷間圧延用ワークロールの耐摩耗性について
- (3) 各種ロール材の摩耗特性
- (4) ダルの摩耗について
- (5) 高マンガン D. C. I. の諸性質について
- (6) 球状黒鉛鑄鋼管の耐摩耗性について

第27回国際フィールド・エミッション・シンポジウム

会期 昭和55年7月6日(日)～12日(土)：7日間

会場 笹川記念会館

東京都港区三田3丁目12番12号

電話 03-454-5051

(主要題目)

(A) 電界電子顕微鏡

- 表面電子構造
- 吸着

- 拡散
- 仕事関係

(B) 電界イオン顕微鏡

- 表面吸着
- 表面反応
- 表面拡散
- 界面構造
- 照射効果

- 電界はく離
- 格子欠陥
- 極微量不純物原子偏所
- 析出核発生過程

(C) アトムプローブ質量分析装置

- 金属中の極微量分析ならびにその応用
- イメージングアトムプローブの金属学への応用
- 表面結合エネルギーの測定
- 核変換損傷

(D) 応用題目

- イオン源と電子源

(E) ミューラー賞選考講演会

- 若い活発な研究者を表彰するための研究発表

(連絡先) 〒113 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学工学部金属材料学科内

第27回国際フィールド・エミッション・

シンポジウム事務局 (井形直弘気付)

電話 03-812-2111 内線 7133・7136

~~~~~  
書 評  
~~~~~

電 気 製 鋼 法 (第 3 版)

編者 E. Plöckinger und O. Etterich

ページ 440 ページ (図 258, 表 96)

本書はドイツ鉄鋼協会が出版する *Stahleisen-Bücher* の一つに属する。電気製鋼法の第1版は1951年 F. Sommer と H. Pollack に書かれ、第2版は1964年 E. Plöckinger によつて書かれている。本書はその第3版とし1979年内容を一新して編集されている。出版の背景として、第2版が出版された1964年から特殊鋼の生産量は約10倍に増加すると共に、この間新しい種々の精錬法が開発され、実施されていることを述べている。この間に技術的内容も多岐に渡つているため編者は、編者等を含めて、42人のドイツ、オーストリアの専門技術者、研究者によつて本書を著したと述べている。

本書は電気炉、特にアーク炉、高周波炉操業に必要なすべての技術、すなわち原料、電気設備、炉体、操業法、造現法、自動化設備、公害対策設備について詳細に述べられている。また最近の ESR, プラズマ溶解、電子ビーム溶解についてもかなりのスペースをさいている。最後に工場原価の計算法についてもふれている。内容的特徴として、冶金技術者に理解しやすいように電気回路の計算法が述べられている点が挙げられると共に、本書1冊あれば電気炉操業ができるように書かれている。したがつて本書は電気炉操業技術者の座右の書として推薦できる。(川和高穂)